

東北お遍路プロジェクトの標柱
を除幕する新妻理事長（右）ら



東北お遍路巡礼地に選定

相馬の津神社

津波避難先 言い伝え 震災時 住民救う

相馬市原釜の津神社が「東北お遍路巡礼地」の一つに選ばれ、二十四日、同神社前で標柱の除幕式が行われた。東北の市民団体が連携した「東北お遍路プロジェクト」（仙台市）が本県から青森県までの東北被災地で巡礼地の選定を進めている。

巡礼ポイント選定は「一釜地区の高台にあり、新地町の龍昌寺に続き」

津波の避難先として言い伝えが残り、東日本大震災の際にも避難した住民の命を救った。

地域住民ら約二十人が参加した。神事が行われた後、新妻香織理事長（相馬市）が「千

トとして、震災の教訓を語り継いでいきたい」とあいさつした。

新妻理事長ら代表八人が除幕し、標柱を披露した。立谷秀清市長、熊谷秀治中村東部一区长が祝辞を述べた。

復興支援で石柱設置に協力している山田石販（宮城県角田市）に感謝状が贈られた。語り部として活動している村上美保子理事（新地町）が紙芝居「つのみず伝説」を披露した。